

第312回 番組審議会

1. 日 時 令和4年 6月 14日 (火) 12:00～
2. 場 所 ホテルメトロポリタン盛岡NEW WING
11F「ギャラクシー」
3. 委 員 委員総数 8名
出席委員数 7名

○ 出席委員 (敬称略)

鈴木 厚人 (委員長)

—50音順—

石田 征広

佐々木 泰司

菅原 正二

平野 順子

八木橋 伸之

渡邊 佳隆

○ 会社側出席者

齋藤 秋水 (代表取締役社長)

高嶋 昇 (常務取締役)

一戸 俊行 (取締役)

君澤 温 (取締役総務局長)

井上 智晶 (岩手めんこいテレビ報道部副部長)

○ 事務局 近谷 利政

岩渕 博美

4. 議題 FNS ドキュメンタリー大賞ノミネート作品

「半歩でも前へ 信じて伝える

～津波を知らない子どもたちへ～」

放送日時：令和4年5月28日（土）

14：00～14：55

5. 議事概要

今回は、5月28日（土）に放送した『半歩でも前へ 信じて伝える～津波を知らない子どもたちへ～』について審議しました。

●岩手めんこいテレビ報道番組部副部長井上からの説明

東日本大震災で7人の児童が犠牲になった陸前高田市の高田小学校は、つらい記憶を呼び起こさないよう当時のことを伝える授業をできないでいたが、校長の決断で、防災教育に取り組み始めた。学習の意義を多くの人に伝えたいと思い制作したことを説明。

●出席した委員からの意見

- ・校長の言葉に説得力とパワーを感じた
- ・PTGの概念の説明がわかりやすくてよかった
- ・震災から時間が経過する中で、トラウマを心の成長へ変えることができるという、一石を投じる番組だった
- ・登場人物の心の葛藤をていねいにインタビュー、取材していて、番組に厚みを加えていた
- ・映像が単調だったので、カメラワークを工夫した方が良かった
- ・どういう教育をしていくのか、学校内でその議論がどのようになされたのかプロセスをもう少し知りたかった
- ・先生一人の努力では限界があり、小中学校が一体となって避難訓練をする必要があるのではないか

●委員からの質問、意見に対する会社側からの回答

コロナなどで、なかなか自由に学校を取材できる状況ではなく、子どもたちの成長を番組を通して表現できているのか葛藤があったが、ある一定の程度は

響いて伝わったのではないかと思いました。いただいたご意見を活かし、さらに良い番組を作れるよう努めます。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

7. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

※令和4年6月15日（水） 産経新聞 東北版

※令和4年6月25日（土）午前4時42分から4時45分まで
「めんこいテレビ番審リポート」として放送。

※据え置き書類を作成し、本社受付、各支社に備置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

8. その他の参考事項

特になし

次回は、令和4年7月12日(火)12時より開催予定です。